

SHIRAKOBATO

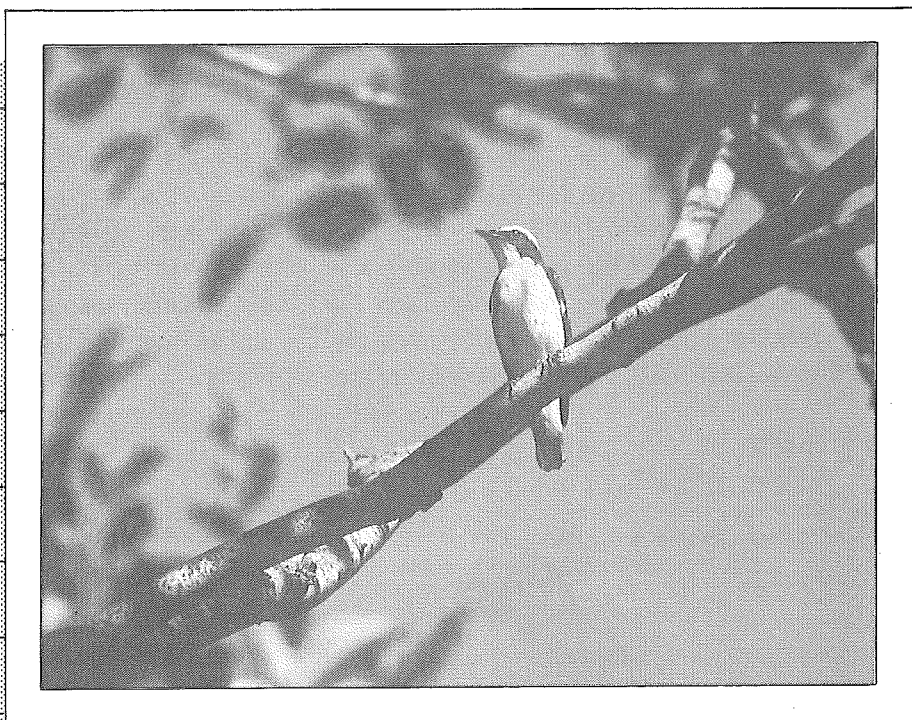
しらこぼと



1989. 9

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 64

日本野鳥の会 埼玉県支部

丸山公園(上尾市)

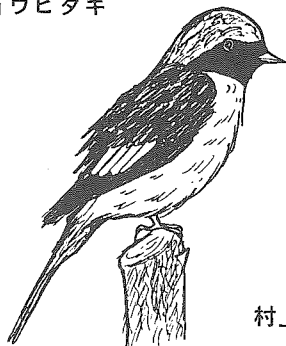
はじめに

丸山公園は上尾駅西口から西約5kmの所にあります。広さは12ha、南北に約800mの三日月状に広がった池があり、又武蔵野特有の混交林(野鳥の森)が散在してる。その西約500mには荒川が流れ、遠く南西に富士山、秩父連山を望むことが出来ます。公園周辺にアシ原、田んぼ、畑があり草花や野鳥は四季を通して楽しめます。それでは探鳥コースをご紹介します。

春から夏

春は小さな生物達の躍動の季節、そして人人にさまざまな出会いと感動をあたえてくれます。朝…、シーンと静まりかえっている公園。野鳥達とたしかな出会いをもとめて歩いてみてはいかがでしょう。混交林(野鳥の森)の中に入ると小鳥達のさえずりや忙しそうに飛び回っている姿が目につきます。カワラヒワ、シジュウカラ、コゲラやツグミなど…。しばらくその姿にみとれて居るとどこからともなく花のおいがただよい、その方に歩いて行くと梅の花に枝から枝へと飛び交うメジロの群れに出会います。時折、強い風が(春の嵐)吹きあれるなど、春は本当にめまぐるしい…。日一日とひざしがやわらかくなるころツグミやジョウビタキなど冬鳥達が北国への旅立の時。小さな昆虫たちも長い眠りから目覚め、手足をのばすのもこの頃でしょうか。

ジョウビタキ



村上由香

公園の中程に滝があります。早朝は滝からの水音がきこえません。その小さな水溜りに、淡い黄色をお尻にほんのり残すキセキレイ、黒と白とのコントラストが美しいハクセキレイやセグロセキレイの姿がみられます。

修景池ではカワセミ君がたっぷりとサービスしてくれます。ここでは双眼鏡は必要ないくらい近くで見られます。時々番いで飛び回っていることがあります。

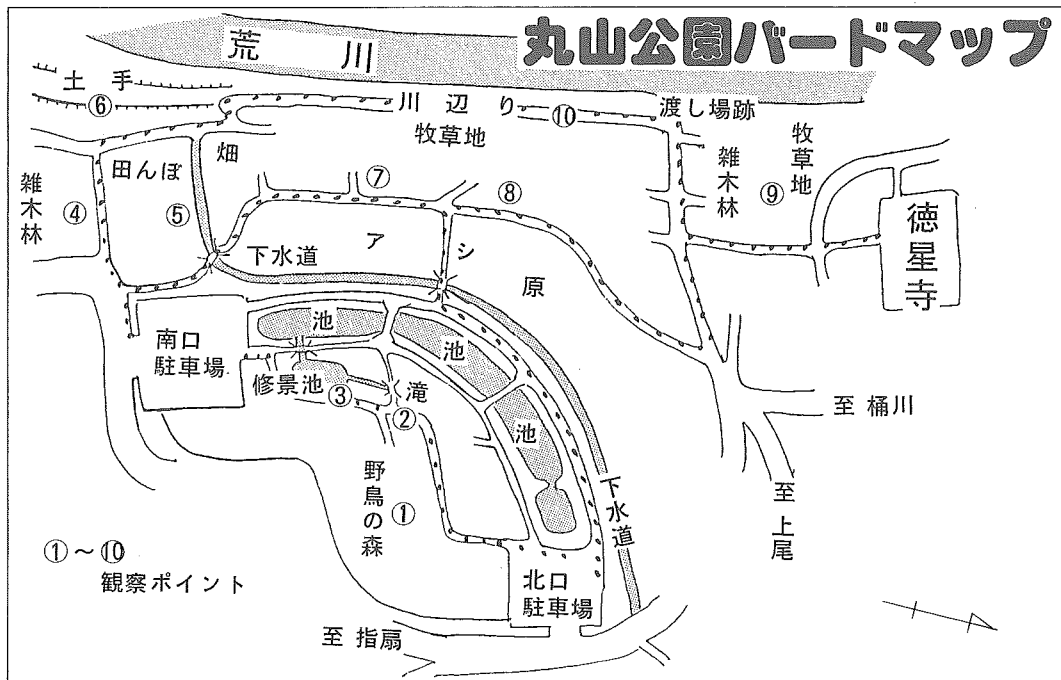
さて気分がホットになったところで南口駐車場を出ると右手は一面アシ原になっています。陽が高くなると公園はにぎわいをみせ、田植え前の水田でセリを摘む人々…。道端や畦道などにホトケノザ、オオイヌノフグリと小さな可憐な花を咲かせている。遠くでヒバリがさえずり…。ツバメがスイスイ飛び交うのどかな春を楽しめます。

風薫る新緑をむかえ、北側の水生植物池では花菖蒲がちらほら咲きはじめ、アシ原ではオオヨシキリに1年ぶりの対面。カッコウが忙しそうに飛び交う姿が見られるころ梅雨をむかえます。花や草木にとってはめぐみの雨ですが、毎日続くとうとうしくなります。そんな梅雨晴の時を利用して、大木に昔をしのび憩いを楽しむのもいいでしょう。

公園から15分程で徳星寺(畔吉)があります。寺の境内のふちには今は少なくなったカントウタンポポの群落がみられます。奥の方に天然記念のオオカヤの木があり、又昔の人が恋文を書いたと言われるタラヨウと云う木も今では珍らしく、由緒ある寺です。

荒川の方に歩むと畔吉船着場跡などを合わせて観賞してみてもいいでしょう。荒川辺りではアマサギやモズ…、公園ではカワセミの親子連れに出会えます。園内では2、3年前からカワセミのヒナが観察されています。

時間に余裕があれば夕ぐれのアシ原も楽しい。辺りが薄暗くなるころはタマシギや時折りバンが観察できます。



秋から冬

ほおに風のつめたさを感じ、木々の葉も色づき移りゆく秋をみつめていると早くも冬鳥たちが渡って来ます。収穫をよるこぶ人々のこえもきえ、晩秋から冬期にかけて公園内の野鳥たちは一層にぎやかさを増します。

周辺は雑木林が多くシメ、アオジ、アカハラなどの冬鳥たちのオンパレード…。荒川辺りの土手に上がると晴れた日なら遠くに富士・秩父連山の山並が望めます。チョウゲンボウが山並をバックに舞っているなど、それはすばらしい眺めです。

足を上流の方へのぼし、秋冬期の徳星寺と雑木林などを回ってみるのも楽しい。近くの民家の庭先で愛敬をふりまくジョウビタキ…。畑ではキジやコジュケイの散歩の姿を見ることができます。

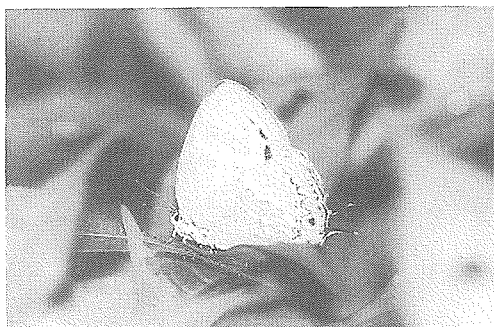
公園へ戻ってみましょう。池の外側にアシ原が流れるように続き、オオジュリンやカシラダカ、ホオジロの群れをみかけます。途中の耕作されない水田にタシギやタゲリの姿も見うけます。この辺りのアシ原はゆっくりと時間をかけて歩いてみて下さい。出会と感激、そして忘れえぬ思い出を…。

おわりに

丸山公園をざっと紹介しました。荒川があって公園周辺は雑木林が多く、アシ原は桶川の川田谷まで続いている、今では所々に点在した形でのこっている。そんなアシ原でも生きる者にとっては大切な自然です。いつまでも残しておきたいものです。四季を通して、野鳥そして草花など、探鳥地として見どころもいっぱいあって十分楽しめます。是非お出かけ下さい。

交通は…

JR高崎線、上尾駅西口より東武バス1番のり場、車庫行き乗車、終点より徒歩15分です。
(乗田 実)



アカシジミ (登坂久雄)

1989年春のシギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部 表

去る4月29日、春のシギ・チドリ類県内一斉調査が行なわれた。この日埼玉県は、大陸から張り出してきた高気圧のまっただ中。シギ・チドリ類県内一斉調査としては、久しぶりの晴天となり、30名の会員の御協力を得て、県内5か所で調査が実施された。その結果は表のとおりである。

今回の調査では、種数ではこれまでの13種を3種上回り、その分で個体数の合計も伸ばしている。

阪東大橋では、今年もツバメチドリの渡来が確認された。この調査でカウントされたのは初めてである。トウネンも珍しい。

明戸では、アカエリヒレアシギが観察された。これも珍しい。

秋ヶ瀬は、この3年間、安定した結果を示しているが、個体数は漸増傾向にある。

最後に、調査に参加して下さった会員の皆様に心より謝意を表す。次回の調査は9月15日。
(執筆 榎本秀和)



年	阪東大橋 利根川 (本庄市)			明戸 荒川 (川本町)			秋ヶ瀬 荒川 (浦和市、大宮市)			深作沼 (大宮市)		豊水高橋 入間川 (狭山市)	
	87	88	89	87	88	89	87	88	89	88	89	88	89
コチドリ	6	20	2	1	5	5	5	1	2	21	20	—	—
イカルチドリ	6	—	3	2	7	—	—	—	—	—	—	—	6
シロチドリ	1	1	2	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
ムナグロ	—	—	2	—	—	—	400	444	488	31	25	—	—
キョウジョシギ	—	—	—	—	—	—	3	7	2	—	—	—	—
トウネン	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ウズラシギ	—	—	—	—	—	—	2	—	2	—	—	—	—
ハマシギ	—	—	31	—	40	—	2	—	10	20	—	—	87
アオアシシギ	—	—	1	—	—	1	—	—	4	—	—	—	—
クサシギ	—	1	1	1	1	1	—	—	—	1	2	—	—
タカアシシギ	—	—	—	—	—	—	50	52	69	—	—	—	1
キアシシギ	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—
イソシギ	2	5	4	2	6	8	2	—	1	2	10	1	—
チュウシャクシギ	—	—	—	—	—	—	12	6	7	—	—	1	—
タシギ	1	1	1	—	2	—	14	30	39	36	2	1	—
シギ SP.	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—
アカエリヒレアシギ	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—
ツバメチドリ	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
87年	13種	5種		3種			11種						
88年	13種		5種		6種			8種		6種			
89年	16種			11種		6種			10種		6種	5種	
個体数	16	28	50	5	57	17	493	542	624	111	60	96	

※87年の明戸地区のデータは、大麻生地区分を除外した数字なので、『しらこぼと』No.40(87.9月号)掲載の数字とはやや異なります。

コゲラの足にご注意

海老原美夫(浦和市)

板橋区に住む東京支部の鳥友、土橋信夫さんから手紙が届きました。

都立城北中央公園で繁殖したコゲラにバンディングをしたので、埼玉県内で足輪をつけたコゲラの情報があったら知らせしてほしいとのこと。

88年1羽、89年4羽の合計5羽です。

- 88年♂ 右足メタル 3A01917
左足カラー もと青・さきピンク
- 89年♂ 右足メタル 3A01926
左足カラー もと黄・さき赤
- 89年♂ 右足カラー もと黄・さき黄緑
左足メタル 3A01928

89年♀ 右足カラー もと黄・さき白

左足メタル 3A01929

89年♀ 右足カラー もと黄・さき水色

左足メタル 3A01930

もし足輪をつけたコゲラを見かけたら、右と左のどちらがカラーでどちらがメタルか、カラーはもとは何色でさきが何色かを確認してください。もしも足輪をつけたコゲラの死体が回収できたときは、メタル足輪の番号を調べてください。

89年の4羽は5月13日から14日にかけて巣立ちしたそうです。

ご連絡は支部事務局までどうぞ。



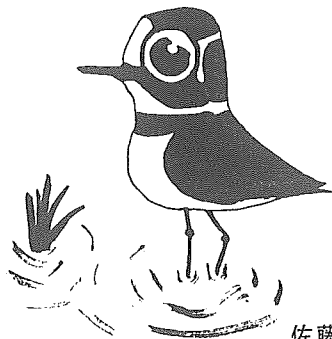
会員の声

日野溪谷より

三田長久 (狭山市)

日野溪谷のオオルリ、ルリ平君からのお便りを御紹介します。

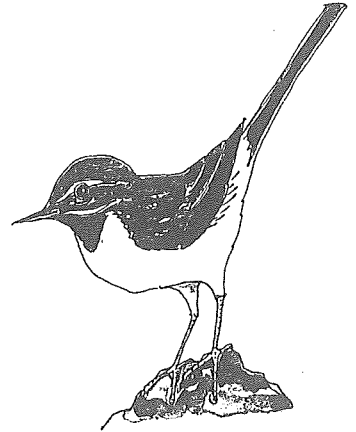
「ぼく、今年の夏はひどい目にあっちゃった。日野溪谷になわばりを持っていただけ、ルリ吉君の声にひかれて、駅付近のあるうちの裏庭へいってみたら、なんとカスミアミにひっかかっちゃったんだ。カゴに入れられたルリ吉君の声はカラオケ装置で遠くまで届くようになっていてね、カゴの前にカスミアミがはってあったんだ。まったく、いやんなっちゃう。せっかく梅雨の最中にもかかわらず僕たちを見たいと思ったMさんが遠いところから来てくれても会えなくなっちゃったんだ。だからね、朝から何時間も日野溪谷を歩きまわっても僕たちがいないもんで、Mさんはがっかりしてたんだ。でもね、僕もカラオケ装置に向かって大きな声をはりあげたらMさんは気がついてくれたんだ。まったく物好きなMさんは人の家の裏にまわって覗いたんだよ。望遠鏡なんぞ持っているもんだからすぐにカスミアミに気がついて110番してくれたんだ。もう、すぐにパトカーが来て、おまわりさんがカスミアミをとっばらって僕たちを逃がすようにしてくれたんだ。でもね、今年はどうとうお嫁さんといっしょになることも出来なくなっちゃった。しょうがないけどまた来年があるさ！また来て一生懸命歌うからみんな来てよね。じゃ、さようなら」



佐藤晶人



野鳥の会



会員を一挙に100倍にする方法

林 滋 (美里町)

故郷創成一億円の使い道に困っている自治体がかなりあるようです。そこで支部長名で各自自治体の長宛て手紙を出して、町民全員を野鳥の会々員にしませんか。ダメで、もともと。

【アピール方法】

1. 全家庭に50年の歴史を誇る野鳥誌を配布します。
2. 全家庭に身近な話題や行事満載の埼玉県支部の支部報『しらこぼと』を配布します。
3. 全家庭に野鳥の会監修の『山野の鳥』『水辺の鳥』を配布。
4. 世界中の有名探鳥地へのツアーに会員資格で参加できます。
5. 外国の一流都市と姉妹都市締結の時、野鳥の会が推薦します。
6. 文化祭や町民行事の時、会員が撮影した傑作写真を貸し出します。探鳥会を開催し、ベテランリーダーを多数派遣致します。
7. 一般のツアーでは絶対に見ることのできないまぼろしの鳥、沖縄のヤンバルクイナ等を見る探鳥会に、会員資格で参加できます。
8. 人気沸騰野鳥の会オリジナル販売物が、会員特別価格で購入出来ます。
9. 日本野鳥の会がサンクチュアリ建設等を全面的にバックアップします。
10. ところ豊かに緑と自然にあふれた故郷創成に野鳥の会が役立ちます。



- カワウ ◇7月2日午前9時30分頃、鴻巣市大間の荒川河川敷で1羽。荒川の上流より飛来し下流に飛去る(榎本秀和、みち子)。
- ヨシゴイ ◇7月9日、越谷市西新井の調整池で♂♀の成鳥、幼鳥合せて5羽。繁殖の可能性有り(山部直喜)。
- ゴイサギ ◇7月27日、川本町の明戸堰で1羽(諏訪隆久)。◇8月2日、越谷市西新井の調整池で150羽以上。ねぐらにしていると思われる(山部直喜)。◇8月3日午後7時、志木市本町2丁目上空で「コアッ」と一声(藤原寛治)。
- ササゴイ ◇8月3日、越谷市の古利根川で幼鳥1羽(山部直喜)。
- チョウゲンボウ ◇7月29日、熊谷市大麻生河原で♂♀各1羽(諏訪隆久)。
- コジュケイ ◇6月3日、浦和市のわし神社南の植木畑で親鳥2羽ひな4羽を連れて歩いていた(大武昭雄)。
- キジ ◇6月18日、浦和市の見沼田圃で♀1

がひな3羽を連れて歩いていた(大武昭雄)。

- ヒクイナ ◇6月3日、浦和市の総持院西のアシ原脇で1羽(大武昭雄)。◇7月24日、浦和市上野田の水川神社西のアシ原で1羽(大武昭雄)。
- コチドリ ◇7月10日、浦和市見沼の畑で3羽。その内1羽がツバメに追われる(大武昭雄)。
- ジュウイチ ◇6月7日午後8時頃、所沢市北秋津で鳴き声(佐藤方博)。
- ホトトギス ◇5月24日午後9時30分、所沢市北秋津で鳴き声(佐藤方博)。
- アオバズク ◇7月23日、上尾市の八枝神社で若鳥1羽(楠見邦博、文子)。◇7月23日、越谷市桜井地区で7月号で紹介した夫婦からヒナ2羽巣立つ。新しい♀ともうまくいったもよう(山部直喜)。
- ヨタカ ◇7月15日、入間市宮寺の狭山丘陵で1羽。また同所でヒグラシの初認(渡辺敦)。
- アカゲラ ◇7月15日午前9時30分、坂戸市城山の山道沿いの木で1羽。ドラミングのまっさい中(増尾隆)。
- カワセミ ◇8月3日、越谷市の古利根川で1羽。この時期の確認は初めてである(山部直喜)。
- イワツバメ ◇7月某日、大宮市の大宮駅西口のソニックシティのまわりを約20羽。長い時間、かなり高空を遊ぶように飛ぶのを19階より観察する(金子明弘)。◇7月19日、越谷市西新井で20羽以上乱舞する。(山部直喜)。



(押川歳子)

【9月のみどころ】

夏の余韻の中にも秋の気配が感じられる季節となりました。

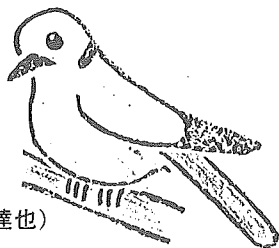
水辺に行ってみると昨日までと違った風景に気づくでしょう。いつの間にかもうカモ達が渡って来ています。シギやチドリの仲間もずいぶん種類も数も増えてきました。街の中では、あれほどにぎやかに飛び回っていたツ

バメやイワツバメの姿も見られなくなりました。

渡ってきたばかりのカモ達は全部カルガモみたいにオスもメスも同じ地味な色をしています。カモは翌年の繁殖の相手を越冬地で決めてしまいますので、オスはそうした目立たない格好で十分に旅の疲れをとって、きたるべき変身の時に備え、つがい相手を見つける為の競争に突入して行くのです。ということは毎年相手が変わるわけです。誰ですか、うらやましいなんて言っているのは。

シギやチドリの仲間は、ほとんどは遠く北の地からやってきて日本で休養と栄養をとったあとでさらに南へ渡って行きます。東京湾に渡来する旅鳥のシギの体重を量ってみたところ、同じ種類で80グラムのものもいれば150グラムのももいたそうです。渡ってきたばかりでエネルギーを使い果している鳥と栄養補給を十分に果した鳥との差だったそうです。それを思うと、ただ餌をとっているだけにしか見えない姿も、彼らにとっては、渡りをのりきる為の脂肪をたくわえる必死の作業なんですね。がんばれよと思わず声をかけて、あげたくります。

ツバメ達は各地のアシ原に集って南に渡る準備です。生れ故郷を離れて、来年また日本に帰ってこられるのはどれくらいいるでしょうか。留島であるスズメやシジュウカラなどの小鳥の平均寿命は1年半といわれています。それは1年目の幼鳥のうちには大半は死んでしまうからです。成鳥になると死亡率が下がっ



(高橋達也)

表紙の写真

キビタキ (ヒタキ科ヒタキ亜科)

これは一昨年の10月3日に戸田市道満で撮影したものです。

その前年にこの場所でエゾビタキを見たので行って見たところ、エゾビタキは3羽に、おまけにキビタキまでいたのです。



(押川歳子)

てきますので、中には6~7年は生きるものもあるそうです。渡りをするツバメではどうなのでしょう。同じ鳥が3年目も同じ巣に戻ってくることはまれだそうですが。

この時期ツバメやイワツバメの群れの中にショウドウツバメがまじっていることがあります。県内では、本庄市の利根川河川敷などで大きな群れが見られることがありますが、他でも各地で少数の群れを見ることができません。短めの尾と胸の茶色の帯が特徴です。北海道以外ではこの時期以外は見る事ができないのでお見のがしないように。

高空を飛翔するアマツバメは私の好きな鳥の一つです。姿は似ていてもツバメとは縁もゆかりもないそうです。山地で繁殖して南へ渡って行く途中の群れが見られます。水田や河川敷の上空を長いカマ形の翼で空気を切り裂くように飛び、腰の白がよく目立ちます。時々それより小型のヒメアマツバメが見られることがあります。イワツバメに似ていますが翼が長く、下面が白くなく黒っぽいので区別がつけます。県内では入間市役所での繁殖が知られています。(藤原寛治)

バードフォトコンテスト入選作

何度もフライキャッチを繰り返し、十分に私を楽しませてくれました。尾羽が短いので若鳥なのでしょう。今年も渡りの途中に立ち寄ってくれるのでしょうか。

(写真と文・登坂久雄=八王子市)

行事あんない



千葉県・谷津干潟探鳥会

期日：9月9日（土）
集合：午前9時30分 京葉線南船橋駅前
交通：武蔵野線北朝霞8:12発→武蔵浦和8:20→南浦和8:23→南越谷8:35→南船橋9:14着
解散：午後2時ごろ
担当：杉本秀樹
見どころ：干潟にあふれるシギ・チドリの群。
9月の干潟は旅の途中のシギ・チでいっぱいです。近頃話題のウオーターフロントの、自然のままの姿をじっくり。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月10日（日）
集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:00発→大麻生9:10着 / 秩父鉄道寄居8:52発→大麻生9:10着
解散：午後1時ごろ
担当：諏訪隆久 林滋、岡安征也、町田好一郎、小淵健二
見どころ：川原にそろそろ秋の気配。まだまだ暑い日が続くけれど、夏の主役たちが日を追って見えなくなるのがこの季節。

秋のシギ・チドリ類県内一斉調査

期日：9月15日（金・祝）
日本野鳥の会埼玉県支部では、春と秋の2

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
探鳥会に参加される場合、持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。参加費は、一般=100円、会員及び中学生以下=50円。受付は探鳥会当日です。特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。小雨決行です。

夢中になりすぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりしないように。タバコの吸い殻やゴミを散らかすなんて事はもってのほか。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

身支度ができたら、さあ出発！

回、独自にシギ・チドリ類の県内一斉調査を行なっています。特に下記の地点は、より多くの会員の参加をお願いしたい箇所です。

◇秋ヶ瀬（浦和市・大宮市）

集合：午前9時30分 大久保浄水場の南角、土手の上、水門のあたり
担当：石井智・森本國夫
解散は昼近くになる予定。雨天決行です。調査ですので参加費はいりません。いつものしたくでお気軽にどうぞ。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：9月17日（日）
集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または午前9時 浦和市立郷土博物館前（北浦和駅の場合、その後バス利用）
解散：午後1時ごろ
後援：浦和市立郷土博物館
担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、乗田実、手塚正義
見どころ：秋の足音に耳を澄まそう（I）。夏の姿をとどめる三室の里にも、秋の足音は近づいています。そういえば、あの梢のエゾビタキ君にまた会えるかな。

寄居町・鐘撞堂山探鳥会

期日：9月23日（土・祝）
集合：午前9時 寄居駅北口
交通：東武東上線川越8:00発→森林公園乗り継ぎ→寄居8:59着 / 秩父鉄道熊

谷8:25発(入線8:11)→寄居8:52着

解散:午後2時ごろ

担当:林滋、新井清子、小淵健二、町田好一郎、諏訪隆久

見どころ:また今年も、天高く渡るタカの群。毎年、秋分の日に行なわれる探鳥会。この日に合わせて、サシバ君もきっと飛んでくれるはず。

本庄市・阪東大橋探鳥会

期日:9月24日(日)

集合:午前9時 本庄駅北口

(その後現地までバス利用)

交通:高崎線大宮7:42発→熊谷8:26→本庄8:49着

解散:午後1時ごろ

担当:北川慎一、林滋、町田好一郎、小淵健二、榎本秀和

見どころ:秋の足音に耳を澄まそう(Ⅱ)。渡りの途中の旅鳥でにぎやかな、阪東太郎の河川敷。何が飛び出すか、リーダーにもわかりません。川向うに聳える赤城山とも、半日たっぷりお付き合い。

『しらこぼと』袋づめの会

とき:9月30日(土) 午後1時~3時ごろ

会場:支部事務局(浦和市西口を出て左側、三菱信託銀行と日建ハウスの間に入って進み、信号ひとつ渡ってY字路の右、茶色5階建マンションの1階=徒歩約5分=住所は12ページ下欄のとおり)

案内:おしゃべりしながらテキパキテキパキ。耳寄りな情報もあったりして、今も楽しく袋づめ。

野鳥写真クラブ定例会

とき:9月30日(土) 午後3時ごろ~5時

会場:『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内:ひと夏の思い出をみんなで披露。

川口市・差間探鳥会

期日:10月1日(日)

集合:午前9時 武蔵野線東浦和駅前

交通:武蔵野線北朝霞8:44発→武蔵浦和8:51→南浦和8:54→東浦和8:58着

解散:午後1時ごろ

担当:手塚正義、伊藤芳晴

見どころ:自然豊かな差間の里に、旅の鳥をもとめて。都市の近郊とは思えぬ静かな野辺を、今売り出し中の若いふたりがご案内。ノビタキも冬羽に着替えて待っています。

10月8日(日) 熊谷市・大麻生探鳥会

10月10日(火・祝) 渡良瀬遊水池探鳥会

10月15日(日) 浦和市・三室地区探鳥会

10月22日(日) 荒川村・日野溪谷探鳥会

10月24日(火) 栃木県・奥日光探鳥会

10月29日(日) 大井野鳥公園探鳥会

11月3日(金・祝) 上尾市・丸山公園探鳥会

同日 富士見市・柳瀬川探鳥会

11月5日(日) 蓮田市・黒浜沼探鳥会

同日 吉見町・吉見百穴探鳥会

宮城県・伊豆沼探鳥会(要予約)

期日:11月10日(金) 夜行~12日(日)夜

集合:10日午後11時 大宮駅東口

費用:24,000円ぐらいの予定(バス代、宿泊費、昼食代、保険料など)。

定員:20名程度(先着順、支部会員優先)

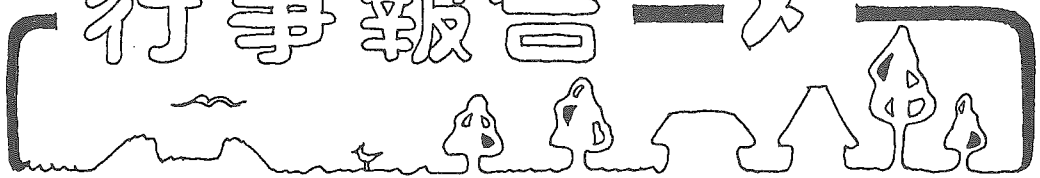
最少催行人員:15名(人数が15名に満たない場合は中止となります)。

申込み:往復葉書に住所、氏名、電話番号、年齢、性別を書いて北川慎一(〒367本庄市銀座)まで。

担当:北川慎一、草間和子、榎本秀和、中島康夫

見どころ:ときめきのバスツアー第2弾。マガンの越冬地として有名な伊豆沼へ、バスを借り切った探鳥旅行。朝焼けの中、数万羽のマガンが一斉に飛び立ち、鉤になり竿になり飛ぶ姿は、まさに圧巻です。シジュウカラガン・カリガネ・コクガンなども期待しましょう。帰りは奥松島まで足を伸ばして、海ガモやウミスズメを探す予定です。

行事報告



6月11日(日) 熊谷市 大麻生

人 14人 天気 曇 鳥 カイツブリ ササゴイ ダイサギ コサギ カルガモ トビ コジュケイ キジ バン コチドリ イソシギ コアジサシ キジバト カッコウ ホトトギス ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 本格的に梅雨入りした大麻生。緑がより一層濃く見える季節になった。今年も大麻生はベビーラッシュ。スズメ、シジュウカラ、モズなどのかわいい姿を見ることができた。そして、その一方では、オオヨシキリに追われているカッコウという、自然界のダイナミックなドラマも見られた。

6月18日(日) 浦和市 三室地区

人 41人 天気 曇 鳥 ゴイサギ カルガモ コジュケイ キジ コチドリ シラコバト キジバト カッコウ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 芝川にカルガモの親子連れが2組登場して合計19羽の雛が見られ、歓声があがった。また、シラコバトやキジの雄も現われた。

7月1日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
 がんばってくれた人 海老原教子、海老原美夫、角田真喜子、草間和子、鈴木秀男、高橋夕香子、田口浩司、登坂久雄、町田好一郎、宮坂亨 元田英明、吉田二三子、渡辺敦、渡辺孝章 (14人)

7月1日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 17人 作品発表した人 5人



バードソンの思い出 (海老原美夫・浦和市)

7月8日(土) 坂戸市 高麗川

人 24人 天気 曇 鳥 カイツブリ ゴイサギ アマサギ コサギ カルガモ コジュケイ キジ バン イカルチドリ シロチドリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 新しい命の誕生する季節。カルガモ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、シジュウカラ、カイツブリ、カワセミなどのかわいい幼鳥が見られ、バンは抱卵中だった。ヤマセミは林リーダーが早朝に見かけただけで、残念ながら探鳥会では現われてくれなかった。

7月8日(土) ~ 9日(日) 富士山5合目と青木ヶ原 人 27人 天気 8日は曇、

9日は雨 鳥 トビ キジバト ヨタカ アマツバメ ツバメ イワツバメ キセキレイ ビンズイ ヒヨドリ ミソサザイ カヤクグリ コマドリ コルリ ルリビタキ トラツ

グミ ウグイス メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシクイ キクイタダキ キビタキ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ウソ ムクドリ ホシガラス ハシブトガラス (29種) 初めての探鳥地富士山は、サロンバスを借切って行った。5合目で最初に出会ったのが、みんなの見たがっていたホシガラス。霧が流れる幻想的な景色の中、御中道を歩く。コメツガの頂きで甘い声で鳴いているのはルリビタキ。残雪の上にヒョッコリ現われたウソ。そして華麗に咲くフジハタザオなどの植物群。宿に着き、コケモモ酒を飲みながら水場で待っていると、ドラマチックなシーンが続々と繰広げられた。キクイタダキは、頭の赤い部分までじっくり見られ、きれいなルリビタキが気持ちよさそうに水浴びする。そして、鈴を振ったような声が近づき、カヤクグリが登場。どの鳥たちも手が届きそう。すごい！そして、カモシカに出会ったラッキーな人もいた。二日目は生憎の雨だったが一人の遭難者も出さずに青木ヶ原を歩き、楽しい2日間を過ごせた。

7月9日(日) 熊谷市 大麻生

人 20人 天気 雨 鳥 カイツブリ ササゴイ ダイサギ コサギ カルガモ バンイカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ ホオジロ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) 2カ月連続して雨にたたられた大麻生探鳥会。定例の悲しさで鳥がいけない季節にも探鳥会を行わなければならないとリーダーの泣く声をよそに、今月も20人。雨のため、自動車でも戸堰まで移動してウォッチング。たった30分だけだったが22種も確認できた。そうなんだ。雨だからって鳥たちは家の中にいる訳にはいかないんだ。雨の日は、定例に慣れて初心を忘れたリーダーにカッを入れてくれる。また来月から大麻生を多くの人に知ってもらおうための努力をしなくては。

7月16日(日) 浦和市 三室地区

人 14人 天気 大雨 鳥 カワウ コサギ アオサギ カルガモ キジ キジバト ツバメ イワツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ ハシボソガラス (16種) 梅雨末期の豪雨のため、まず室内会を始めた。スライド、虫の話、富士探鳥会の話、鳥の声のテープなど盛り沢山。そのうち小降りになったので1時間ほど外を歩いた。雨の中でもカワウ、アオサギ、コムクドリなどが見られ、初参加の人もよろこんでくれた。

参加者の声

富士山五合目探鳥会

馬場 昇 (大宮市)

天気も上々、皆さん待望のホシガラスを最初に発見。満足の声が出る。続いてメボソムシクイ、ルリビタキと初めて見る鳥が現われる。ぱっと横切るトラツグミ、樹間に消える。見に行った草間さんの声。「ウソがいる。」ホントと皆戻ると、残雪の中の美しい姿が目に入る。しばらく動かず観察。

宿に着くとまたびっくり。部屋から5m位の水たまりにキクイタダキ、カヤクグリなど8種の鳥が現われ、皆大感激。

鳥合せでは25種、新参加者の私はとても無理、しかし初めて見る美しい鳥の姿に大満足。リーダーの北川慎一さんを始め先輩の方々に感謝いたします。また植物の説明をして下さった博学の小荷田さん、星座の話をして下さった杉本さん、他親切にして下さった皆さん本当に有難うございました。



富士山探鳥会にて

連絡帳

事務所を開放します

9月から当番を決めて、毎週土曜日、できるときは日曜日、事務所108号室をオープンします。

世界の図鑑類・全国各支部の支部報・その他の資料を読みたい方、野鳥情報を交換したい方、デートの待ち合わせ場所に利用したい方、ただおしゃべりしたい方、どうぞ気楽にお立ち寄りください。

会員であればどなたでも自由に利用できる事務所です。

— 9月の土日当番(午後2時～6時) —

- 9月2日(土) 草間和子、諏訪隆久
- 9月9日(土) 横山みどり、登坂久雄
- 9月16日(土) 林滋、海老原美夫
- 9月23日(土) 手塚正義、渡辺敦
- 9月30日(土) 袋づめの会(1時から)
- 10月1日(日) 諏訪隆久

浦和駅西口を出て左側の県庁道りに入らず、三菱信託銀行と日建ハウスの間を左折。旭通り商店街を進み、信号ひとつ直進。次のY字路を右にたどり、すぐ右側にある茶色の5階建マンションの1階108号室。駅から徒歩約5分。

オープンしているときにはこんな事をしたらというようなアイデアも大募集中!!…です。

ネームプレート郵送します

900円の本体価格に郵送料は120円で合計1,020円。ご注文をいただくときに直接現金でいただくか、出来上がったネームプレートをお送りするときに郵便振替用紙を同封して、郵便振替でお送りいただくことになります。

便利な方法でご注文ください。

『しらこぼと』1989年9月号(第64号)

定価 100円(会費に含まれます)

発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062

〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

会員数は

8月20日現在1,113人です。

活動報告

7月3日 『しらこぼと』7月号浦和中郵便局から発送(海老原美夫)。

7月3日 第三種郵便物発行人変更認可手続き終了。

7月16日 総務部会議。普及部会議。役員会議(司会:登坂久雄、探鳥会予定の変更、関東ブロック協議会への参加について、行事保険について、事務所のオープンについて、リーダー研修会について、その他)。

7月17日 本部総務部と会員数などについて打ち合わせ。

7月22日 普及部会議

7月24日 8月号校正(大武昭雄、西城戸司)。

7月25日 越谷市自然観察会(宮内庁鴨御猟場)で野鳥観察指導(山部直喜)。

7月31日 8月号浦和中郵便局から発送(海老原教子、角田真喜子)。

7月31日～8月1日 鳩山町中央公民館主催尾瀬の自然観察会野鳥コース指導(海老原美夫)。



7月30日鳩山町で開催された「ゴルフ場はもういらない!埼玉ネットワーク」結成交流会に参加しました。各地で活動している多くの人たちの熱気を肌で感じてきました。

ゴルフ場というものを、自然生態系上、環境上、社会上、市民生活上、あるいは経済上での位置も含めて、広い視野でとらえ、さらに認識を深めていきたいと思っていますが、知れば知るほど「ゴルフ場はもういらない」と言いたくなります。(海老原美夫)